

香川大学創立 70 周年記念行事を実施

香川大学は令和元年5月に創立70周年を迎え、11月2日に、ホームカミングデーと併せた創立70周年記念行事を開催しました。午前中には、多数の卒業生をお迎えして、本学サークル「またたび」の案内により、学内施設を巡る「キャンパスツアー」を実施し、新しく竣工した総合教育棟 (DRI 棟) 等、様々な施設をご覧いただきました。その後、全学同窓会的組織である「香川大学校友会」設立に向けての設立総会を開催し、設立が承認されました。午後からは、オーリースクエアにおいて、卒業生に加え、多数のご来賓、企業の方々をお迎えし、総勢約 200 名のご参加により、記念式典を挙行。式典では、寛学長による挨拶、淵上孝文部科学省高等教育局国立大学法人支援課長、浜田恵造香川県知事、佐伯勇人四国経済連合会会長から、本学の創立 70

周年へ向けた温かいご祝辞をいただきました。その後は、記念動画放映に続き、劇作家・演出家・青年団主宰の平田オリザ氏から「大学教育における演劇の役割」と題した記念講演をいただきました。更に、各界で活躍中の卒業生・修了生によるビデオメッセージの放映、起業家卒業生の、三宅徹(株) FABRIC TOKYO 代表取締役社長、森雄一郎(株) FABRIC TOKYO 代表取締役社長と寛学長による対談が行われました。祝賀会では、寛学長の挨拶に続き、午前中に設立された香川大学校友会の杉本副会長から、ご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。その後は参加者のご歓談と共に、本学サークルである吹奏楽団、剣道部、メルシー笑クラブ、ジャズ研究会“Bird land”による演奏等が行われ、終始和やかな雰囲気の中、大いに盛り上がりました。



サークル「またたび」によるキャンパスツアー



記念式典における寛学長挨拶

東京農業大学と香川大学との連携・協力に関する協定締結および記念講演会を開催

本協定の締結 (10月17日) により、農学の幅広い分野で、特色ある教育研究に実績のある東京農業大学との間で、様々な学生・研究者の交流機会とともに、農業や関連産業の振興等、地域社会との連携が拡大することが期待されます。当日の午後には、オーリースクエアにおいて、高野学長により「東京農業大学

が取り組む地域実践—香川大学との連携への期待—」との題目で記念講演をいただきました。

連携・協力事項

- (1) 教育・研究に関する事項
- (2) 教職員・学生の交流に関する事項
- (3) 地域社会の発展に関する事項



東京農業大学と香川大学の関係者 (中央左: 高野学長、中央右: 寛学長)

在京都フランス総領事が学長を表敬訪問

10月28日、在京都フランス総領事のジュール・イルマン氏が、香川日仏協会の川染会長、平田事務局長とともに、寛学長を表敬訪問しました。本学からは寛学長をはじめ、国際ナショナルオフィスの野田客員教授、植村特命講師、経済学部の金澤准教授が迎えました。ジュール・イルマン総領事と寛学長は、若い頃に外国を訪れて見聞を広めることの重要性

や、フランス人と日本人は感性が似ている部分があること、今後の交流の発展が期待できること等について意見を交わしました。表敬訪問の後、総領事はグローバル・カフェでフランス人留学生によるランチプレゼンテーションを見学され、日本人学生や留学生らと交流しました。この訪問を機に、本学とフランスとの更なる学術交流の推進が期待されます。



寛学長 (左) とジュール・イルマン総領事 (右)



香川大学
法学部長
三野 靖
mino yasushi

変わることを恐れず、若い感性を磨き、次代を拓く！君たちへ

在学中の学生の皆さんが生まれた年代は、1990年代後半から2000年頃までですが、私の子どもも同世代ですので、今どきの学生の気質やものの考え方、行動等については、それなりに理解しているつもりですが、やはり世代間ギャップを感じる時があります。特に、職業・仕事に対する意識です。なかでも転職に関する意識と現状です。

16歳から29歳を対象とした内閣府の「子供・若者の現状と意識に関する調査」(2018.3)では、転職に肯定的な回答は7割、否定的な回答は1割です。また、初職の継続状況は、3年未満の離職は6割です。離職理由で最も多いのは、仕事合わなかったが4割です。

「石の上にも3年古い？」(朝日新聞 2019.5.28)で、北野唯我さん(ワンキャリア執行役員)は刺激的なコメントをしています。「石の

上にも3年」説は、今の時代にあわず、「どの石を選ぶか」の方が大事だ。仕事における相性を大切にすべきで、今の学生は、バブル崩壊後に生まれた半面、ネットやITに親しみながら育ってきた世代なので、「この前まで良いと言われたものも、変化して当然だ」という感覚を持っている。変わるべきは、「会社を3年で辞める人」ではなく、「同じ会社に30年以上もただ居座っている人」では…と。

先に「世代間ギャップを感じる時がある」と書きましたが、私の学生時代・就職後の仕事や組織に対する意識はどうであったかを振り返ると、程度の差はあれ案外変わらない気がします。毎日、仲間と勉強したり、議論もしたりしましたが、まずは10年働いて区切りをつけるつもりでいました。実際、10年目頃になると仕事や組織の問題もみえてきて、仕事そのものよりも仕事のやり方や組織のあり方を変えたいというモチベーションが強

なってきました。組織の外からの目みえることを積み重ねた末、自分のいる場所ではないと思い、数年後に転職しました。ただ、単に批判的にみただけでなく、自己研鑽に努めたり、仲間と研究会を立ち上げ、政策提案をしたりと人生のなかでも一番フル回転していた時期だったと思います。学生の皆さんも変化することを恐れず、既存のものに疑問を持ちながら、自分の感性を磨き、次代を拓く人物になってください。



高校の学園祭のバンドの様子です。不良ではありませんでしたが、勉強よりギターやベース、ドラムをいじっていました。



VOICE

香川大学生が企画・運営「讃岐に響け！よさこい音頭 YOSAKOI 高松祭り」 全国から44チーム約1000人の踊り子たちが高松に集まり熱い演舞を披露



ファイナルステージ後の総踊りでみんなが集まってカメラに向かってポーズ

10月5日・6日、「第4回YOSAKOI高松祭り」の開催を無事に終えることができました。今年、県内や本場高知のほか岡山、大阪、東京、岐阜などから、44チーム約1000人の踊り子

たちが集まり、高松市中央公園をメイン会場に、玉藻公園、兵庫町商店街で素晴らしい演舞を披露してくれました。
第4回YOSAKOI高松祭り実行委員会のメン

バーは11人、すべて香川大学生です。私は香川大学よさこい連「風華」で3回生まで踊りに専念し、踊り子を引退したのち実行委員長に手を挙げました。

実行委員長をしようと思ったきっかけは、大学に入ってYOSAKOIに出会い、もっと多くの人にYOSAKOIを知ってもらいたいと思ったからです。YOSAKOIには人を笑顔にする力があります。私自身、1年生の時に先輩たちが踊っている姿を見てすごく元気をもらいました。また、人が何かに夢中になることに感動して涙したこともあります。踊る人それぞれに伝えたい思いや、見せたい踊りは違いますが、見ている人に何かを伝えることができると感じています。

YOSAKOI高松祭りでは、高松の人に少しでも非日常な時を味わっていただきたいと思って準備をしてきました。YOSAKOIを見たことがある人もない人も、がむしゃらに踊る踊り子を見て、なにかパワーをもらえるといいなとも思っています。また、全国各地から来てくださる踊り子さん、カメラマン、スタッフ、来場者の方々に、高松の魅力をYOSAKOI高松祭りを通して知っていただきたいと思っています。

YOSAKOI高松祭りの企画・運営はすべて学生で行っていますが、私たち実行委員会の力だけでは、決して開催することはできませんでした。本当にたくさんの方に支えていただき成り立っています。一つのことを成し遂げるにあたって、こんなにも多くの人に関わっていることを身をもって知りました。力を貸してくださった方々には本当に感謝してもきれません。

また、私が実行委員長を最後まで務めることができたのは一緒に頑張ってきた実行委員会のメンバーの存在があったからです。ノウハウがわからなかったり、時には関係者の方か

ら厳しいお言葉をいただくこともありました。そんなとき、先輩・後輩関係なく支えあえる実行委員会のメンバーの存在は本当に大きなものでした。

香川大学に入り、YOSAKOIを通して出会えた仲間や、実行委員会に入らねば出会えることのなかった方たちとのつながりは、私にとってかけがえのないものとなりました。大切なものへとつなげてくれたYOSAKOI。これからも多くの人にYOSAKOIの魅力を伝える活動を続けていきたいと思っています。

第4回YOSAKOI高松祭り実行委員長
経済学部4年 高山叶



祭り終了後、実行委員会メンバーと（高山叶：中央）

EVENT



10/12-13 第40回医学部祭
村尾孝児教授による医療講演をはじめ、模擬検査や車椅子体験などの医学展、子どもたちのダンスやお絵かき展、アーティストライブなどを開催。各学生サークルは、音楽ライブ・お茶席・ダンス・展示などで日頃の活動の成果を発表しました。



10/26 創造工学部オープンキャンパス&讃工祭
宝探しやクイズラリー、ビンゴ大会など、子どもや地域の方々に楽しんでいただけるイベントも多数開催され、活気に満ちあふれる一日となりました。入試説明会・相談会では、受験生が真剣に耳を傾けていました。



11/3 農学部オープンキャンパス・収穫祭
今年は留学生お国自慢料理と野菜苗・植物の販売を正面玄関に場所を変え、農学部構内を広く活用し開催。世界糖尿病デー企画では希少糖含有シロップで作ったアイスクリームを食べた後の血糖値測定や健康相談などに長い列ができました。

from International Office



ちきゅう見聞録



タイ・チェンマイ
農学部
藤田修太郎
2019年4月から10月まで
卒論のための調査研究



驚きました。タイ人の仏教徒は普通に歩いている際にお寺があると、一度立ち止まって手を合わせます。それを見る度に信仰心の強さを感じました。



タイ原産の「ブロンファ」という植物の研究をしました。具体的には、亜種の来歴・分類の調査、栽培方法の確立、現地で利用法の調査を行っているところです。タイにはハーブの種類が多く、ブロンファを知らない人も多いためです。



200%のリアクションをすることで、タイでも友達を作ることに成功しました。すなわち「オーバーリアクション作戦」。言語がわからない時に気持ちを伝える方法はリアクションだと確信しています。

read more

